



学校だより 12月号

泉区緑園五丁目28番

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryukuenhigashi/>

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

「『がっつ緑園』の深まり」

～直接ふれあうことの素晴らしさ～

11月17日に緑園都市駅前「街マルシェ」が開催されました。一昨年までの「街カフェ」が名称を変えて再び開催され、キッズクラブの和太鼓サークルと緑園西・東両校の児童が参加いたしました。

再びの開催にあたって、地域の皆様が「子どもたちが楽しみにしているイベントをもう一度開催したい。」という思いで大変なご尽力をされていることを私も存じておりました。たくさんの方々のご協力を得て、当日は素晴らしい青空のもとで、子どもたちも参加をすることができたことに心より感謝を申し上げます。

本校では、子どもたちが児童会スローガンに「がっつ緑園～地域でもがんばる」と掲げてから3年経ちます。この3年を振り返りますと、最初は「地域でもがんばる」と言っても、子どもたちは自分が楽しみにしている「夏祭り」や「地域運動会」に参加することくらいしか思い浮かばなかったように思います。

スローガンとして掲げ続けながら、学級や学年、児童会で話し合う中で、少しずつ視野が広がり具体的にイメージができるようになってきました。行事への参加だけでなく、自分から挨拶をすること、地域清掃に参加すること、幼稚園や保育園、緑園西小学校の友だちとのふれあいを大切にすること等、意識を高くもつようになってきました。子どもたちの意識の高まりは、毎年この時期に行われる「緑園まち作文コンクール」で一人ひとりが書く作文の内容にも表れています。

さて「街マルシェ」では、6年生が地域取材して回り、地域のよさを伝えるために、1組が「街マルシェ」電子パンフレット、2組が「みりょくえんマップ」を作製して「街マルシェ」で披露をしました。さらに1組では「街マルシェ」電子パンフレットのQRコードを広めるために、子どもたちはタブレット端末を持って参加している方々に直接声をかけて歩きました。また2組では「みりょくえんマップ」にちなんだクイズをつくって会場を回り、答えてもらいました。街の一員としての子どもの素敵な一面を発見した一日でした。

子どもたちにとって、地域の方々に直接話しかけることは勇気のいることだったと思います。なかなか大きな声が出せない子や友だちの後ろから遠慮がちに声をかける子もいました。それでも少しずつ経験を積み、夕方に学校に帰ってきたときには満面の笑みを浮かべていました。その笑顔には達成感や自信が感じられました。

「街マルシェ」の本番は一部の児童のみの参加でしたが、作成の過程では全員が地域の方々と関わりました。「がっつ緑園」とは、こうやって一人ひとりが地域のことを考えて知恵を絞り、足を運び、地域の方々に自分から働きかけるという「直接のふれあい」であることを強く感じました。「緑園子ども見守りプロジェクト」でも、3年生の児童が地域の方々への日頃の感謝の気持ちを自分の言葉でしっかりと伝えることができました。

「自分で直接働きかける」ことは、毎日の学校生活の中でも家族との生活の中でもとても大切なことです。相手の目を見ながら自分の思いをしっかりと伝える、お互いの気持ちを汲み取りながらやりとりをすることは、私たちが身に付けなければならない最も大切なコミュニケーションの基本です。ネットが主流となりつつある世の中ですが、子どもたちには、ぜひ「自分の言葉を使って、相手の目をしっかりと見て、働きかけること」を大切にしていってほしいと願います。

子どもたちが地域の方々と直接つながり、思いを汲み取り、街の一員として何かしらの力を発揮していくことは、これからの時代に求められる大切な力です。これからも学校、保護者・地域の方々とともに、子どもたちによりよい力を育ててまいりたいと思います。どうぞこれからもご理解とご支援をお願い申し上げます。